

No.	提 案 名	提 案 団 体 名	
		代表者氏名	所 属
2	プロ野球独立リーグ参加による 地域活性化の可能性	作新学院大学 那須野ゼミナール 3年生	
		谷田部 勝寛	作新学院大学 経営学部
		指導教員 氏 名	那須野 公人

## <目 次>

1. 研究のねらいと要旨
2. プロ野球独立リーグの設立とその発展
  - (1) プロ野球独立リーグとは
  - (2) わが国におけるプロ野球独立リーグの歴史
  - (3) プロ野球独立リーグの発展
  - (4) プロ野球独立リーグによる若手選手育成
3. 「群馬ダイヤモンドペガサス」の活躍と群馬県の財政支援
4. 独立リーグ参加に関する大学生アンケート
5. プロ野球独立リーグ参加による経済効果
6. プロ野球独立リーグの運営状況
7. 栃木県チームのプロ野球独立リーグ参加に向けて

## 1. 研究のねらいと要旨

プロ野球独立リーグ「四国アイランドリーグ」は、今年福岡県と長崎県のチームが参加して、「四国・九州アイランドリーグ」へと発展しました。また「BCリーグ（北信越）」には、やはり今年から隣県群馬県と福井県のチームが参加しています。さらに、北隣の福島県でも、独立リーグ参加への動きがあるようです。そこで、栃木県チームのプロ野球独立リーグへの参加と、それによる宇都宮活性化の可能性を検討してみたいと考えました。

全体の構成は上記目次のとおりです。プロ野球独立リーグの概要を整理した後、今年BCリーグに参加した「群馬ダイヤモンドペガサス」について調査しました。その後、栃木県チームが独立リーグに参加することを想定して、学生を対象にアンケート調査を実施し、その結果を整理しました。さらに、栃木県チームが独立リーグに参加した場合の宇都宮市への経済効果を、東北楽天ゴールデンイーグルスの事例（宮城県が試算）を参考に試算しました。その結果、1年間の経済効果は、間接効果を含め約1億6,500万円となりました。それから、独立リーグ参加を考えて独立リーグの運営状況を確認するとともに、プロバスケットボールチーム「リンク栃木ブレックス」の経営から、プロスポーツのマネジメントがバブル崩壊後変わってきたことを学んで、実際に栃木県チームが独立リーグへ参加する際の経営主体の問題にも触れています。

## 2. プロ野球独立リーグの設立とその発展

### (1) プロ野球独立リーグとは

プロ野球独立リーグは、アメリカにおいて大リーグとその傘下のマイナー組織とは別にできたプロ野球リーグであり、わが国でもこれにならって、2005年「四国アイランドリーグ」が発足しました。

わが国でプロ野球独立リーグが設立されたのは、主に次の2つの理由からです。①バブル経済崩壊後の長期不況によって社会人チームが減少したことから、野球をする場を失った若者達にその機会を提供しようとしたこと、②「おらがまち」のチームとして、地域のにぎわいづくりと地域活性化に貢献しようとしたこと、です。

### (2) わが国におけるプロ野球独立リーグの歴史

2005年に「四国アイランドリーグ」が開幕しました。所属チームは、香川オリーブガイナース、徳島インディゴソックス、愛媛マンダリンパイレーツ、高知ファイティングドックスの4チームでした。その後、九州でも独立リーグ設立の動きがありましたが、結局チーム数がそろわなかったため、福岡レッドワブラーズ、長崎セインツの2チームが、2008年シーズンから四国アイランドリーグに参加することになりました。こうした経緯から、リーグ名も「四国アイランドリーグ」から、「四国・九州アイランドリーグ」に変更されました。

ところで、2007年には、日本で2番目のプロ野球独立リーグ「北信越ベースボール・チャレンジ（BC）リーグ」が開幕しました。当初の参加チームは、新潟アルビレックスベースボール・クラブ、信濃グランセローズ、富山サンダーバーズ、石川ミリオンスタースの4チームでした。その後2008年に、群馬ダイヤモンドペガサスと福井ミラクルエレファントが参加することになったため、「北信越」をはずし「ベースボール・チャレンジ（BC）リーグ」に名前が変更されました。

### (3) プロ野球独立リーグの発展

わが国のプロ野球独立リーグが2つになったことから、2007年度より独立リーグ日本一を決める「グランドチャンピオンシップ」が開催されることになりました。この「グランドチャンピオンシップ」では、2007年に続き「香川オリーブガイナース」が2年連続日本一になりました。

また2009年には、「関西独立リーグ」が開幕予定です。「関西独立リーグ」は、従来のプロ野球がなかった地域につくられた2リーグとは異なり、すでにプロ野球のある地域にできた「都市型独立リーグ」のため、観客が集まるかどうか心配されていますが、企業の多い都市に立地しているため、すでに数十社のスポンサーが名乗り出ているとの

ことです。同リーグの最高顧問は、四国アイランドリーグを創設した石毛宏典氏です。チームは、紀州レンジャーズ、大阪ゴールドビリケーンズ、神戸9クルーズ、明石レッドソルジャーズの4チームの予定でしたが、最近滋賀県のチームも参加することになりました。

関西独立リーグの合同トライアウト(入団テスト)には、神奈川県の川崎北高校2年、吉田えり投手(16歳)等女性選手が挑戦し話題となりました。アンダースローの吉田投手は、得意のナックルボールを駆使して男性選手をノーヒットに抑え、「神戸9クルーズ」から7位で指名されました。吉田投手は男性選手とともにプレーする、わが国初の女性プロ野球選手となります。

その他、「BCリーグ」には、現在福島の他、静岡、愛知、岐阜、三重のチームも参加を検討中であり、「四国・九州アイランドリーグ」でも岡山・宮崎のチームが参加する動きがあります。

#### (4) 独立リーグにおける若手選手育成

「四国アイランドリーグ」からは、計17名の選手が(内育成枠12名)、またBCリーグからは計4名の選手が(すべて育成枠)日本プロ野球に指名されています。その他、「四国アイランドリーグ」では、米メジャーリーグとのマイナー契約した選手が1名出てきています。

このように両独立リーグは、若手選手育成という点において、一定の成果をあげています。

### 3. 「群馬ダイヤモンドペガサス」の活躍と群馬県の財政支援

今年からBCリーグに参加した群馬ダイヤモンドペガサスは、参入初年度にもかかわらず2007年前期は上信越地区で2位、後期は2位の新潟アルビレックスベースボール・クラブに5.5ゲーム差をつけて優勝を飾りました。そして、BCリーグチャンピオンシップ(全5戦・3戦先勝)に出場し、前期優勝の新潟アルビレックスに勝利しましたが、決勝では惜しくも北陸地区優勝の富山サンダーバーズに敗れました。しかし、初年度としては、めざましい活躍といえるでしょう。

群馬県は、このダイヤモンドペガサスを財政面から支援しています。その具体的な内容は次のとおりです。

- ①野球場使用料の3/4(950,000円/1試合)を減免
- ②広告掲示料の全額(1,680円/平方メートル)を減免
- ③販売所設置料の全額(710円/平方メートル)を減免

群馬県は、減免の理由として次のような理由をあげています。

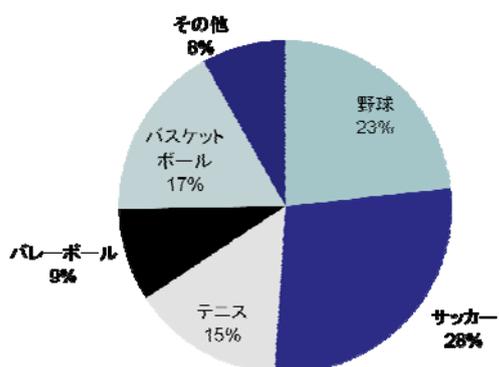
- ①群馬県の知名度の向上
- ②県民に対する地域シンボル・地域アイデンティティの提供
- ③スポーツ・文化振興と青少年育成への貢献
- ④福祉施設無料招待券等の社会貢献活動
- ⑤地元企業との連携等による地域振興、地域おこし活動への参画

群馬県も、地域におけるダイヤモンドペガサスの存在を高く評価していると見ることができます。

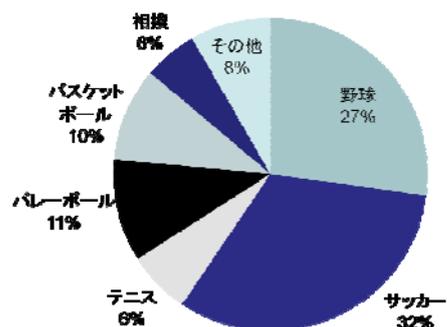
#### 4. 独立リーグ参加に関する大学生アンケート

私達は、「プロ野球独立リーグ参加による地域活性化」の可能性を探るため、本学経営学部の学生を対象にアンケート調査を行いました（回答者数 126 名）。その結果の抜粋は、次のグラフのとおりです。

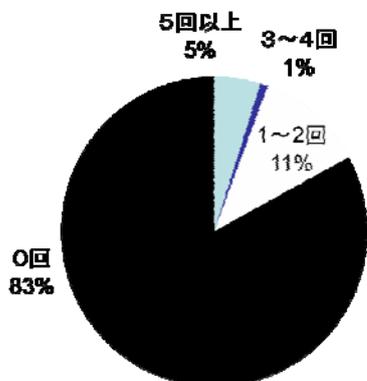
1. 好きなスポーツは何？



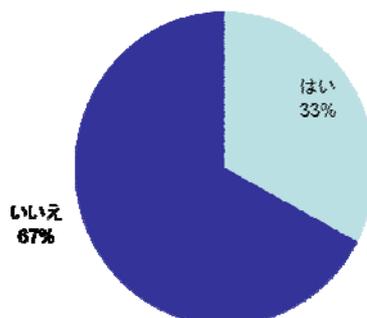
2. テレビでよく観戦するスポーツは？



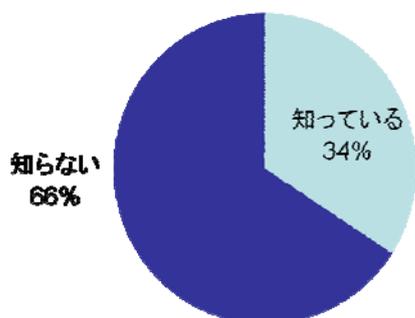
3. 昨年球場でどの程度プロ野球を観戦しましたか？



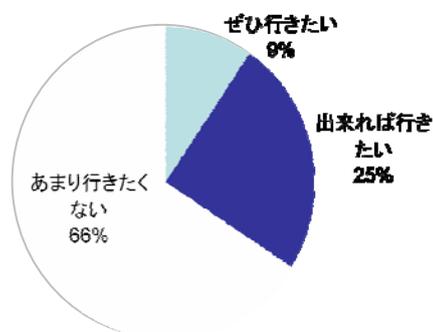
4. 昨年球場で高校野球を観戦しましたか？



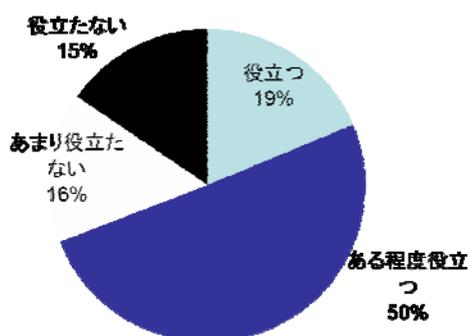
5. 「プロ野球独立リーグ」を知っていますか？



6. 栃木県のチームが独立リーグに参加したら、球場に応援に行きますか？



7. 栃木県チームのプロ野球独立リーグ参戦は、地域活性化に役立つと思いますか？



グラフ1によると、最近の若者はサッカー好きの人が多いようですが、野球の好きな人もかなりいることがわかります。グラフ2の「よく観戦するスポーツ」についても、やはり第1位はサッカーですが、野球がこれに次いで多くなっています。また、昨年どの程度球場でプロ野球を観戦したかについては、宇都宮でプロ野球の試合が開催されることはごくまれにしかないので、グラフ3のように遠方の球場にまで観戦に訪れた人は必ずしも多くありません。しかし、地元で開催される高校野球になると、グラフ4のように、全体の3割以上の人観戦に訪れています。さらに、今年の4月22日に清原球場でプロ野球公式戦、巨人ー横浜戦が開催された際の入場者数は、18,564人を記録しました。このように、地元で独立リーグの試合が開催されるなら、かなりの入場者が見込まれるのではないかと思います。

一方、プロ野球独立リーグを知っているかどうか聞いたところ、グラフ5のように「知っている」人は34%でした。地元で独立リーグがなく、独立リーグに関する報道が少

ない割には、比較的多くの人がある存在を知っているとみてよいのではないのでしょうか。もし栃木県のチームが独立リーグに参加したら、球場に応援に行きますか、と聞いたところ、34%の人が行きたいと答えました（「ぜひ行きたい」が9%、できれば行きたい」25%）。この数字は、独立リーグを知っている人の数字と同じでした。

次に、栃木県チームのプロ野球独立リーグ参加は地域活性化に役立つかどうか聞いたところ、69%の人が役立つと答えました（「役立つ」が19%、「ある程度役に立つ」が50%）。

これは若者に対するアンケート調査ですが、年配者になればなるほど、サッカー以上に野球人気が高いことが想像されます。1962（昭和37）年には、作新学院が全国の高校ではじめて、甲子園春夏連覇を達成しました。ある意味では、この頃が栃木県の野球人気が最も高かった時期と考えることもできます。この世代の人々は、いま退職年齢を迎えつつあります。若者だけでなく、時間的に余裕の出たこの世代の人々が球場に足を運んでくれるなら、栃木県チームのプロ野球独立リーグへの参加は、成功する可能性が大きいのではないかと思います。

## 5. プロ野球独立リーグ参加による経済効果

宮城県企画部企画総務課が、昨年「東北楽天ゴールデンイーグルスが宮城県に及ぼす経済波及効果」という記者発表を行っています。そこで、この推計を参考に、栃木県チームがプロ野球独立リーグに参加した場合の宇都宮市への経済効果を推計してみました。

まず、宮城県の数字を参考に、日帰り客と宿泊客に分けて直接効果（入場料、交通費、飲食費、グッズ購入等）を推計しました。数字は、宮城県の場合より若干控えめに見積ってあります。日帰り客の場合、入場料が600円、交通費が1,000円、飲食費が1,500円、グッズ購入が500円で、合計3,600円としました。次に宿泊客の場合には、入場料が600円、交通費が3,000円、飲食宿泊費が13,000円、グッズ購入が1,000円で合計17,600円としました。なお、入場料は1,000円程度であろうと予想しましたが、招待者もいることを考慮すると平均600円程度になるのではないかと考え、推計ではこの600円という数字を使用しました。

次に、上記の数字をもとに、宇都宮への直接効果を推計しました。その際、日帰り客が98.5%、宿泊客が1.5%として計算しました。また、入場者数は、BCリーグの1試合平均入場者数1,318人を使用し、ホームゲームのうち20試合が宇都宮で開催されると仮定しました。

① 日帰り客の1試合当り直接効果計＝

日帰り客の1人当り支出額×（1試合当りの入場者数×日帰り客の割合）

@ ¥3,600×(1,318人×0.985)=¥4,673,628

② 宿泊客の1試合当り直接効果計＝

宿泊客の1人当り支出額×(1試合当りの入場者数×宿泊客の割合)

$$\text{@ } ¥17,600 \times (1318 \text{ 人} \times 0.015) = \underline{¥347,952}$$

③ 宇都宮開催による直接効果合計＝(①+②)×20試合

$$(¥4,673,628 + ¥347,952) \times 20 \text{ 試合} = \underline{¥100,431,600}$$

次に、間接効果を出してみました。これは、直接効果から生じる各産業への波及効果です。宮城県の推計では、間接効果は結果的に直接効果の約65%となっています。そこで、単純に上記③に65%を掛けてみました。

④ 間接効果＝直接効果合計(③)×65%

$$¥100,431,600 \times 0.65 = \underline{¥65,280,540}$$

最後に、試合の宇都宮開催による直接効果総額と間接効果総額を足すと、宇都宮に対する経済効果が出てきます。

⑤ 栃木県チームの独立リーグ参加による宇都宮の経済効果＝③+④

$$¥100,431,600 + ¥65,280,540 = \underline{¥165,712,140}$$

## 6. プロ野球独立リーグの運営状況

アルビレックス新潟の各クラブの運営費は、サッカーが約28億円、バスケットが約3億円、野球が約1億円となっています。このアルビレックスの運営状況から見ると、野球チームの運営費は他に比べて安いことから、プロ野球独立リーグへの参入は、比較的容易であると思われます。

また、アルビレックス新潟ベースボール・クラブの所属するBCリーグの開幕初年度(2007年)観客動員数は、1試合平均1,790人で四国アイランドリーグの初年度の約1.7倍を記録しました。しかし翌2008年は、1試合平均1,318人と前年度比25%減となりました。これは、開幕初年度には無料招待券を配って多くの人に来てもらっていたのに対し、2008年には無料招待券を減らしたことが影響したとされています。とはいえ、有料入場者数は増加しているとのこと。

では、2008年からBCリーグに加盟した群馬ダイヤモンドペガサスの経営状況はどうなっているのでしょうか。残念ながら、2008年の群馬ダイヤモンドペガサスは赤字に終わりました。最大の原因は、シーズン前期に県営敷島球場の使用料減免が受けられず、使用料を全額負担したことが大きく響いたと思われます。赤字になった原因は他にもあり、後援会員3,000人という目標が1,700人に留まったこと、後期の入場者数が前期の平均2,159人から平均1,116人へと半減してしまったことです。ただし、この半減には、前期行っていた少年野球チーム等の招待を、後期には行わなかったということも

影響しているようです。

栃木県チームが参加する場合には、当初から球場使用料の減免を受け入れられるよう、事前にしっかりと準備を行う等、群馬ダイヤモンドペガサスの教訓を活かした取り組みをする必要があります。

入場者数を増やすために、今後スポンサーや冠マッチ等を増やす工夫が必要だと思います。サッカーのナビスコカップや天皇杯のようなものをつくり、リーグ戦の他、「BCリーグ」、「四国・九州アイランドリーグ」、「関西独立リーグ」で、シーズン中にカップ戦を行うことも必要だと思います。その他にも、テレビ中継の増加、インターネット中継による試合配信なども考えてみる必要があります。

## 7. 栃木県チームのプロ野球独立リーグ参加に向けて

### ーリンク栃木ブレックスの経営に学ぶー

日本のスポーツ発展史をみると、かつてはスポーツチームが特定の企業に支えられていたことから、利害関係者（ステークホルダー）は限られており、利害関係者の調整（マネジメント）はほとんど不要でした。

しかし、地域密着を謳ったJリーグの登場と90年代後半の企業スポーツの衰退は、「単一の利害関係者に依存することなく、多様なステークホルダーと関係を構築する」というスポーツ組織の構造改革をもたらしました。こうして、特定の利害関係者に依存することのリスク認識が高まり、今やプロチームの運営においては、「マネジメント」がきわめて重要になりました。

プロバスケットボールチームであるリンク栃木ブレックスでは、企業との関係においては、メインスポンサーの他、メイン以外のスポンサーの確保のため、企業別にカスタマイズした商品の開発のほか、物品・サービス提供企業の拡大（収益への寄与は小さいが、支出抑制に役立つ）等、数多くの多様な企業との関係構築に努めています。

ファンとの関係では、「ファン予備軍（まだホームゲームに行っていない人）」、「ブレックスファン（既にホームゲームを1試合でも観戦した経験のある人）」、さらに「コアファン（何度もブレックスの試合に足を運んでいる人）」の3つのセグメントを意識した取り組みを行っています。例えば学校への練習訪問では、バスケット競技者（「ブレックスファン」あるいは「コアファン」）に焦点をあて、チア・パフォーマンスでは「ファン予備軍」への働きかけを行っています。

また自治体との関係では、ブレックスは練習場所を所有しないため、地域密着活動の展開や地域経済活性化に寄与することによって市民の理解を得、自治体の協力とバックアップを引き出す努力が必要となります。

このように、ステークホルダー・マネジメント（利害関係者の調整）がきわめて重要となった今日、プロ野球独立リーグ・栃木県チームの経営主体として第一に考えられるの

は、すでにこのような経営に取り組んでいる「リンク栃木ブレックス」あるいは「栃木SC」であろうと思われます。

アルビレックス新潟は、それぞれ独立採算となっているとはいえ、同一名称のもとでサッカーの他、野球、バスケットボール、陸上競技等にも取り組んでいます。本県にもサッカー、アイスホッケー、バスケットボールが存在し、さらに2008年には自転車ロードレースのプロチームが設立されましたが、それぞれのチーム運営やファン獲得などの取り組みが中心であり、まだまだ互いの協力関係は乏しいように思われます。これらプロチームが、もし共通の名称を冠して強い協力関係を構築するなら、地域のシンボルとしての役割はこれまで以上に高まり、地域活性化にも大きく貢献できると考えます。

そしてここに、年配者にきわめて人気の高い野球チームが加わるなら、それは栃木県のプロチーム全体の力を強め、地域活性化にさらに大きな役割をはたすことができると確信します。

県や市等の自治体も、「アルビレックス新潟」の成功に代表される、地域におけるプロスポーツの役割を強く認識し、これらプロチームを積極的に支援することが必要であると思われます。

#### 【主要参考文献等】

- ・四国・九州アイランドリーグ ウェブページ：<http://www.ib1j.co.jp/>
- ・ベースボール・チャレンジ・リーグ ウェブページ：<http://www.bc-1.jp/>
- ・神戸新聞 ウェブページ：<http://www.kobe-np.co.jp/news/sports/>
- ・群馬ダイヤモンドペガサス ウェブページ：<http://d-pegasus.com./>
- ・群馬県 ウェブページ：<http://www.pref.gunma.jp/>
- ・「上毛新聞：スポーツ特集」ウェブページ  
： <http://www.raijin.com/news/kikaku/special/>
- ・「東北楽天ゴールデンイーグルスが宮城県に及ぼす経済波及効果について」宮城県企画部企画総務課 記者発表資料、2007年12月7日。
- ・「プロ野球独立リーグの発展は地域を活性化する」vol.2、二宮清純責任編集 SPORTS COMMUNICATIONS ウェブページ：<http://www.ninomiyasports.com/sc/>
- ・リンク栃木ブレックス ウェブページ：<http://www.tochigibrex.com/>